メッセージ：今年は、あの時から10年になりますね。
　今、小学校で4年生を担任しています。この子供たちは、あの時「生まれたばかり」か「お腹の中でもうすぐの誕生を待っている」子供たちです。この子供たちにあの時のことを学習してもらって、これからの子供たちに伝えてもらいたいです。
　ところで、今年の音楽会で。今日リクエストします「エール」（作詞・作曲　美鈴みゆき　さん）を歌いました。9月から練習を始めて、11月に本番でした。「みんなが声を掛け合い、助け合って頑張ろう」と言うものです。その練習中に、新潟で地震がありました。子供たちと一緒に新聞を切り抜いて、いろいろと調べてまとめました。得に「小さな子が、岩の下から救い出されたニュース」は、食い入るように見ていました。
　わたしは、子供たちの歌う「エール」を新潟の小学校に届けて、聴いてもらい、勇気を持ってもらおうと考え、子供たちも賛成してくれました。でも、著作権の関係で簡単にできないことが分かり、断念しました。そこで、私たちの代わりに新潟の人々に届けて頂ければと考えてリクエストします。よろしくお願いいたします。

名前：横川八郎（よこがわはちろう）

年齢：50
住所：神戸市

メッセージ:神戸で生まれ育った私にとって　ほんとになにもかもなくなってしまった震災は悲しいものでした。
でも　その寂しさから立ち直って復興したいまの神戸は　昔とは面影が違うところもあるにせよ　力強く　しっかり大地にたって再現されています。
この力こそが　まさに神戸の魂だと思います。
自信がなくなったり　勇気がでなかったり　つぶれそうになってときに　この立て直された神戸の町を見て　勇気を奮い起こすことのできるのが　神戸っ子だと思っています。
これからも　震災の出来事を忘れず　それを力にして　何事も乗り越えなければと思っています。

名前:柴田　麻由美

年齢:35
住所:神戸市

メッセージ:震災から十¥年たって色々な事を思い出します。
あの時僕は小学5年生で、震災当日には
何もできず、ひたすら泣いていました。

その間にも被害の酷かった地区ではどんどん
人が亡くなっていったと思うと
あの時何故子供だったのか
何故何もできなかったのかと悔やむ気持ちが
今になって思ってしまいます

大人やボランティアがしてきた事を
あの時僕は恐怖のあまり見過ごしていましたが
今になって思い出せば、当たり前のことをする
という事があんなにも安心感を与えていたのかと
痛感させられます。

今大学3回生の冬、就職活動中な僕は
神戸の復興事業にたずさわりたいと思い
神戸市職員目指して奮闘しています。

神戸市の公務員は倍率が非常に高く
受かるかどうか微妙な所ですが
僕が今まで育ってきた神戸にできる
せめてもの恩返しという事で
絶対に受かってやる、と
自分と、そしてこの神戸に約束しました。

名前:中蔦憲二(なかつたけんじ)

年齢:20
住所:神戸市

メッセージ：はじめまして。

あれから10年経ち、このように振り返る機会があったので、あの時の話をひとつ思い出して書いてみます。

当時私は神戸市内の某病院のナースでした。
住んでいた地域の建物への影響は比較的少なく、職員の殆どが徒歩圏に住んでいたので、幸いにも報道であったような大混乱とまでは行きませんでした。しかし水やガスがない、余震が続く中での勤務は非常にストレスがたまるものでした。いつでも避難ができるようにと、私服で勤務していました。

1月の下旬か、2月の上旬だったと思います。

徳島から復旧作業に来られていた当時50歳代の男性が過労で入院されました。
すぐに退院され、一旦徳島へ戻られたのですが、数日して、職場に来てくださったのです。
しかもダンボールいっぱいに軍手や生理用品やら、いろいろ日用生活品を入れて。

私達ナースに下さったのです。

普段は頂戴しないのですが、この時はありがたく頂戴いたしました。

満面の笑みで持ってきてくださいました。そしてその方はまた復旧作業へ行かれたのでした。

あの時の恩は忘れません。

今何をされているのかな？
会ってお礼が言いたい人の一人です。

名前：矢末　敬子（やすえ　けいこ）

年齢：34
住所：神戸市

メッセージ:私を元気付けた音楽として、
1つは、岡本真夜の『涙の数だけ強くなろうよ』で始まる歌(TOMORROWだったと思う)—¥いつも涙が出るほどジーンとして頑張らなくてはと思った.
もう1つは、シャランQの『空を見なよ』—¥この曲が勤め帰りによく行くコンビニ(ダイエー系)で流れると明日への元気をもらえたような気がして好きだった.
今もそのときのことは忘れない.

名前:平井正一(ひらい　しょういち)

年齢:51
住所:神戸市

メッセージ：地震が起こった瞬間何がどうなったのか解らず、よそではもっと悲惨な事が起こっていると思ってました。停電で、明かりも付かずまたテレビで情報を得ようとしても写らない・・・・有るだけの乾電池を集めてきてポータブルTVを見て何時も自分が走っている阪神高速の崩壊の場面を見て足がすくんだこと今も鮮明に覚えています。でも、神戸市民は元気にこうして立ち直りました。自分も含めて褒めてやりたいです。

名前：土肥昭三（どひしょうぞう）

年齢：54
住所：神戸市

メッセージ:　大学の事務局に勤めています。大学生があのころ小学生だったと思うと、どんな思いであのころを過ごしていたのかと思うと、不思議な気分になります。
　福祉や心理学の授業で、震災のことを扱って、震災のビデオを見せる授業もあるそうですが、何人かは耳をふさいで突っ伏してしまうそうです。そんな学生たちの心に、いつか平安がくることを祈っています。

名前:上念省三(じょうねんしょうぞう)

年齢:45
住所:神戸市

メッセージ:　とにかくあの日は怖かったです。僕まだ幼稚園の年長組でした明石市のなかでも、西のほうに住んでいたので、それほど揺れず、被害も少なく、壊れたのはコップ一個でした。
　僕は、ものすごい地鳴りで眼がさめました。当時両親と一緒に2階で寝ていました。母親が僕の頭を布団で抑えてくれたのを今でも覚えています。1階に降りてみるとテレビは落ち、時計は落ちた衝撃で止まっていました。そして、落ちたままのテレビで、ニュースにしました。すると、神戸の街が燃えていました。その時は、とにかく地震が怖いものだという認識しかありませんでした。
　そのあと、学校には震災で被災した人が何人も引っ越してきました。
　震災を体験したからなのかどうかは知りませんが、僕は地震に敏感になりました。このまえ和歌山で地震があったときも、他の家族はあまり気付かなかったそうですが、僕だけは、いち早く気付きました。ただ、近くをトラックが通るだけで、本能¥的に地震だと思うのは困りものです。
　とにかく阪神淡路大震災は僕の一生の中で、最初に自然の恐ろしさを教えられた出来事でした。

名前:岡藤　孝弘(おかふじ　たかひろ)

年齢:16
住所:明石市

メッセージ:私は、当時四歳でしたから、はっきり記憶にあることが少ないです、でも今でも覚えていることが二つあります、一つは寝ている真横にテレビが落ちてきて間一髪で私の頭をかすめていった事、二つ目は父に手を引かれてものすごい煙っている街を叔父さんが避難していた自衛隊のテントまでお見舞いにすごく長い時間かけて行ったことです。 私の街では神戸ほどの被害はありませんでしたが親戚が神戸に多くいるので、年月が経ってから聞く話の方が大変なショックでした、叔父さんはいまでも岡山に行ったままで、顔を見る機会もないままです、あの一日の出来事が10年経っても沢山の人の心を曇らせている、何だかしんどい気分です。

名前:三島　彩佳

年齢:14
住所:明石市

メッセージ：震災の時、励まされた曲・元気が出た曲

あれから10年！私は路線バスの運転をしています。
毎日運転席の窓から街の復興を見届け、早10年！
当時は道路はまともに走れないながら、冬の車内は暖房で暖かかったですが、
休憩所や自宅では水道やガスも震災から2ヶ月ほど不通でとても寒かったです。そんな中、自宅で毎日していた事がありました。
電気は来ていたので、TUBEのLIVEビデオを見ていました。
それも普通に見ているだけなら、寒くて体が震えるだけなので
テンションの高い、盛り上がってる部分を見ながら
一緒に部屋で振付をしながら踊って歌って汗をかいていました。

当時はみんな苦しんでる時だから、部屋で踊って楽しんでるなど大きな口では言えなかったのですが、10年経つ今では『TUBEの曲は寒い冬の暖房代わり、寂しい時辛い時の癒し薬、そして元気を出してくれるエネルギーソ¥ング』だと感じております。

被災したファンクラブの人へTUBEは激励メッセージとサインも送って頂きました。これもすごく心の支えになりました。
先日の新潟中越地震の被災地の避難所へいち早くお見舞いに駆けつけ、ミニライブをされた事は、同じ被災者としてもTUBEは素晴らしいと思います。
ありがとう、TUBEさん！

デビュー20周年の今年、なお一層のご活躍を期待いたします。

TUBE関西 BlueReef（ぶるり）うめたろ～＠甲子園 http://bururi.com/

名前：うめたろ～＠甲子園（梅元博之：うめもとひろゆき）

年齢：37
住所：西宮市

メッセージ:もう10年経ちましたか。つい、昨日のように今でも思い出します。
神戸！世界一おしゃれな街、神戸！！神戸大好きです！
世界に向かって羽ばたこう神戸！！

名前:國村　真(くにむら　まこと)

年齢:42
住所:兵庫県西宮市

メッセージ：こんにちは。

この正月に神戸のセンター街を歩いていても、震災の事など本当に私の頭の中から消えていました。FMでこのメッセージ応募の広告を聞いて「ああ、10年が過ぎたのか」と当時の記憶をたどりました。

10年前の当時高校3年生の受験生だった私も、北海道での6年間の大学生活を経て、今は再び帰って来て社会人をしています。あの頃をあまり思い出さないのは、震災もあり、さらに個人的には受験で失敗して、意図的に記憶から遠ざけてしまおうとしているからかなぁ、感じています。

でも、そんな私の寒い記憶の中に暖かいものが少しだけあります。それは「人や地域との連帯感」というものです。

夜はガラスは壊れ、壁もくずれてしまって冬の風が吹き込む家の中で余震におびえながら、ろうそくの前で家族で過ごす日々が幾日か続きました。本当に余震は恐かった。次に大きな地震が来たら死ぬかも知れない、という恐ろしい感覚です。でも「自分の家族やこのあたりに住んでいる人はみんな恐いんだ」と自分に言い聞かせて頑張りました。
昼は電気・水道・ガスの来ない家の前で近所の方々と無事を確認したり、あるいは御冥福をお祈りしたりしました。ある時は学校に水を汲みにいったり、炊き出しをもらったり。またある時は友人や親戚が壊れた道を歩いて来てくれたり。そんなときはとても不思議な「連帯感」を感じたものです。

震災の頃に戻りたいと思う事はありません。しかし、あの震災をふと思い出した今、決して口先だけではない、「暖かい人や地域との連帯感」を知ることができたのはとても貴重な経験だったと心から思います。華やいだ神戸の街をみて、その思いを一層強くしました。

震災で亡くなられたすべての方に、心よりの御冥福をお祈り致します。

名前：下田隆史（しもだ　たかし）

年齢：28
住所：兵庫県西宮市

メッセージ：震災当時は社会人一年目でもあり、思い出すことはいろいろあります。
神戸三宮へ勤めていた私は、地震の時、ちょうど出勤準備をしていました。
近所の知り合いの中でも、「食事の準備中で、ガスの栓を閉めるのに必死だった」というのは、母だけ。
自宅は神戸ではありませんでしたが、揺れは激しく、終わりがないのではないかと思うほど長く感じられたものです。

電車が動き出すようになり（もちろんいつもと違う路線で）、出勤してみると、道路はぐちゃぐちゃ。
アスファルトが粘土のように盛り上がっていて、非常にやわらかそうに見えました。
もちろん、実際に踏んでみるとやっぱり硬かったのですが・・・。
足元が危ないからと、足首まで覆われたスニーカーを買ったのもこの時です。

12月、初のルミナリエでは、「上を向いて歩こう」の曲が流れていました。
地震後入社してきた後輩と一緒に、配られていた温かいコーヒーを飲んだことを懐かしく思い出します。
その頃には会社付近は整備されていましたが、光の美しさとは裏腹に、まだまだこれから復興という地域もありました。

中越地震で活動を続けるボランティアの話からも、避けるのが困難な天災だからこそ、近所の住民同士はもちろん、広範囲地区での連携・助け合いが重要だと思い知らされます。
会社でも「先手必勝」、「仕事は自ら作れ」と教えられましたが、ボランティア活動も同じなのだと思いました。
自分になにができるか、ささやかなところから始めることが大切なのですね。

現在、我が家では「はばタン」が大人気です。
聞けばはばタンの誕生日も震災と同じ1月17日だとか。
ルミナリエはもちろん、国体や国体関連事業が、震災で心に傷を負った方々の救いとなるように、心から祈るばかりです。

名前：公盛由季子

年齢：31
住所：兵庫県三木市

メッセージ:震災の一ヶ月後に神戸の同業者の会社へ、お見舞いに行きました。テレビで見たままの風景がそこにありました。言葉を失いました。
これで、神戸は10年、いや30年立ち直らへんで、と言われてましたが、わずが数年で立ち直りました。ですが、本当のところは疑問です。電車の窓から見る風景は、日に日にきれいになっていきましたが、それがかえって、悲しい気がしました。

名前:大江　隆幸(おおえ　たかゆき)

年齢:46
住所:姫路市

メッセージ：昨年の１１月に、総合学習で神戸の震災のことについて勉強しました。
インターネットで調べたうえで行ったのですが、思っていたより震災は怖いものだと知りました。
家族、友達、家・・・いろいろなものが失われてしまった地震でした。
地震があったころ、私は北海道に住んでいて、震災のことはニュースでしか知ることが出来ませんでした。
でも、神戸に住んでいたという友達の話を聞いて、「怖い」のをこして「悲しい」になっていました。
しかし！多くのボランティアの人のおかげで、被災された方いろんな面で救われたというのも知りました。
震災は、いろいろなものが崩れ、心も体もボロボロになるけど、人とのかかわりもあって、皆が協力して何かが出来るというのもわかりました。

名前：岡本悠紀乃（おかもとゆきの）

年齢：１４
住所：兵庫県姫路市

メッセージ:私は三宮のトア・ロード筋の川北病院に検査技師として勤務していました。
震災当日は、三宮の病院で夜勤明けでした。目覚ましが鳴る5分前。当直室に寝ていましたが、ベットからバウンドしました。その後病院内の非常警報のベルが鳴動し、点検すると屋上と地下のタンクから水が出ていました。
その時は何が起きたか、地震とは思いませんでした。
裏玄関を開けて、職員通用口の鍵を開けたら、いつも通っている路地が無く、民家が北側にずれて路地が無くなっていました。表¥玄関のドアを開けると北隣の民家が全壊していました。この時、初めて地震である事を確認しました。南方向の山電の線路は北側に垂直に反り返り、ビルも倒れていました。このあと、今度は全館の非常ベルが鳴動しましたが、入院患者約100名は幸いにも全員無事でした。1/17から1/31まで入院患者の世話と復旧の為に病院に泊り込みました。患者は神戸ヘリポートから大阪の病院や他の病院に転院しましたが、従業員約100名は、全員解雇となりました。
復旧作業中は中々弁当が届かず届いたとしても数が少なく、入院患者優先でしたが、水道も断水していましたが、入院患者さんの紹介で明石市の民家の井戸水を借り、タンクに入れ、給食室でラーメンやごはんも炊いていました。ラジオで聞くと非常物資があちこちに届いている情報は聞くのですが、病院には来てもらえませんでしたが、私が貴社(kiss-FM)やAM神戸に連絡したら、すぐに自衛隊の方が給水車で病院前まで、毎日来て頂きました。
メディアってすごいものですね。ラジオ局のかた自衛隊の皆様大変お世話になり有り難うございました。

名前:河原　隆志

年齢:47
住所:加古川市

メッセージ: 私は龍野市に住んでいます。震災の時、大きく揺れましたが幸いにも被害は小さくて済みました。当時中学1年生だった私は、テレビで炎と煙とがれきの街と化した神戸を見て、驚くばかりで何も力になれることをすることなく、震災時のことを思い出すこともあまりしなくなりました。先日、人と未来防災センターに見学に行き、たくさんの資料を見て震災地域の住民の方々、たくさんのボランティアの方々の大変な努力の結果、がれきの街から現在のきれいな街に復興したのだと実感し、私も何か役立てることをしていればと思いました。震災から10年目にあたる来年、神戸で開かれる国連防災会議にボランティアとして参加させていただけることになりました。直接復興に協力できませんでしたが、このボランティアを通して防災に対する意識を高め、被災者の立場でもそうでなくても助け合える人間になりたいと思います。

名前:徳永　有香(とくなが　ゆか)

年齢:23
住所:兵庫県龍野市

メッセージ:あの日、まだ僕は4歳になったばかりでした。
当日の朝の事は、何も覚えていませんが、親に助けられて家具の下敷きになることがなく無事に生き残ることが出来ました。
あの時は、後に震度7の地区があると発表¥された西宮市に住んでいました。
周りの建物は、もうどうしようもない状況で、道路も真っ二つに割れたようなひどい状態でした。
だけど、僕が住んでいたアパートは何の被害も受けずに残りました。
でも、家の中はメチャクチャ。食器棚から皿や椀があちらこちらに散乱して・・・。
そして、僕があの時大切に使っていた小さな車の乗り物も壊れてしまいました。本当にショックでした。
少し前までは、『なんでまだ兵庫にいるんだろう』って思ったこともあります。
でも、やっぱり僕は兵庫が好きです。兵庫こそ一番だって思います。
これからもずっと兵庫にいたいって思うし、兵庫で自分を大きくしたいと思います。
そして、震災のことは決して忘れずに生きていこう。どんな辛いことがあっても、乗り越えていける。そんな人間になりたい。
最後に、未だに震災で寂しい思い、辛い思いをしている人たちが一日も早く立ち直ってくれるように・・・。
『いつか必ず兵庫は元に戻ると。いや、必ず震災以前よりももっと活気がある兵庫・神戸に変わると信じて・・・。』誰もが大好きになる兵庫を目指して！！

名前:葉玉啓太(はだま けいた)

年齢:14
住所:兵庫県三田市

メッセージ:10年前のあの日、僕はまだ小学校2年生でした。寝ている最中に大きな揺れがあり、一緒に寝ていた両親が僕を抱きかかえるようにして布団の中に潜り込みました。まだ幼かった僕は、いまいち何が起こったのか分からず、あまり不安などもありませんでした。しかしテレビを見ていると、大変なことが起こったんだ、と幼いながら思ったことを覚えています。その時は学校での募金ぐらいしか出来なかったけど、今、新潟で地震があって、被災地にボランティアとして行きたい気持ちでいっぱいです。新潟のようすをテレビで見ると、本当にひどく、こんなことが神戸でも起こったんだと思うと、信じられません。あの日からもう10年が経ったのですが、やっと元の神戸に戻ってきた気がします。今の僕には、過去のことを調べる事しかできませんが、いつ起こるか分からない天災に備えて、普段から準備をしておかなければいけないなとつくづく思います。

名前:まつい　じゅんいち

年齢:17
住所:兵庫県養父市

メッセージ:　私は、静岡県で高校3年生のクラス担任をしています。昨年冬、修学旅行で神戸を訪れました。
　私達は「東海大地震」が危ぶまれるている地域に暮らしています。震災で壊された、メリケン波止場を生徒達と見て、言葉に詰まってしまいました。
　しかし、ポートアイランドのホテルから「百万＄の夜景」を眺めた時に、神戸の「復興」を実感したことが忘れられません。
　いつかまた、神戸の街を訪れてみたいと思います。

名前:中村　一(なかむら　はじめ)

年齢:37
住所:　　静岡県富士市

メッセージ：長くて短かった10年、今一度思い起こしてみる時期なのかも！あの時大阪で地震を経験し、復興ですぐに大阪港から船で神戸入りし、地震の凄さをめのあたりにし驚いている暇もなく公的機関の協力に携わり、神戸に住む社員にバイクで、水や食べ物を運び、今思えば簡単に出来ない経験をしたなと思うこの頃です。今現在は、東海地震の心配される静岡県に在住しこれも運命と思い、あの頃の経験を子供たちに話し伝えていく中、地震で被災した人たちのためにも二度とあのような大惨事にならないよう、自然のメッセージを素直に受け止め出来ることからしていきたいと考えます。

名前：鈴木好文（すずきよしふみ）

年齢：43
住所：静岡県浜松市

メッセージ：僕は名古屋在住で、震災の瞬間も名古屋で知りました。
オリックスブルーウエーブを応援し、アマチュアでイラストを描いている僕は、震災後のこの10年で、野球やイラストを通じて神戸に訪れるようになり、神戸の街に触れ、たくさんの人たちに出会えることが出来ました。
僕は震災の現実や被害というのは直接知りません。ただ、野球観戦や地域活動に参加して出会った人たちからも震災のことをよく聞きましたし、活動をキッカケに励まされたという方もいらっしゃいました。
神戸の皆さんと接していくうちに、震災のことに触れ、感じました。
学生時代という貴重な時間に僕自身、神戸に訪れて強くなった面や、人のつながりの大切さありがたさをたくさん知りました。それだけ神戸の街と人はあたたかく接してくださいました。神戸の復興に励む神戸の皆さんのパワーをいただいている気がします。
震災や復興に直面していない僕でも、神戸の皆さんに出会い、震災について触れることで人生観も変わったと思います。神戸の街にはほんとうに感謝しているんです。
なにか一つでもいいから神戸の活性化に役立ちたいという気持ちで、大好きなオリックスの試合を行うグリーンスタジアム神戸（現神戸球場）の内野デッキに5メートル四方のペンキ絵を描かせて頂いたこともありました。
まだまだ復興も完全ではないと聞きます。人々の心にはまだ癒えない1.17という現実が残っていると思います。
いまは社会人として、これからも野球やイラストを通じて、神戸の人たちの活性につながる活動ができればと思います。僕に元気を与えてくれる街神戸に、今度は僕が元気と感動を与えられればなと思っています。
すこしでも辛い過去である1.17より、未来につながる1.17となるように。
これからも頑張ってください。応援しています。

名前：安藤隆晃（あんどう　たかあき）

年齢：26
住所：名古屋市

メッセージ: 忘れもしない10年前、当時私は14歳でした。
友人を亡くし、悲しさに打ちひしがれた数日間は一生忘れない
と思う。

でも10年経ち、大人になった今私は社会人になり今大きな壁に
ぶち当たっているけど、心の中に生きている友人がエールを送っている
ような気がして頑張っている。

1月17日　この日が毎年くるたびに、一歩一歩成長できたらと
思います。

名前:山本　拓也　（やまもと　たくや）

年齢:24
住所:三重県度会郡

メッセージ：震災時、私は大学生でした。多くの友人が被災し、数人のかけがえのない人を失いました。失ったものはとても大きいですが、生きようとする人間の力強さに心を打たれました。1月17日を忘れることなく、頑張って行きたいです。

名前：やまのうちくみこ

年齢：31
住所：大阪市

メッセージ：私は震災当日、私はあまりの揺れに飛び起きてしまいました。最初は先ほどの揺れに驚きっぱなしでしたが、TVでの被災した映像を見て「大好きだった神戸がなんでこんな悲惨な光景になってるねん…！！」と心が悲しさと精神的な痛みでいっぱいになりました。私の自宅マンションは外壁に多少のひびが入るぐらいなどでしたがそんなに大きなダメージはありませんでした。
その夜、あまりの悲惨さや地震の怖さに怯え号泣してしまいました。

震災が起きた日から数ヵ月後、サッカーJリーグ・ガンバ大阪のホームゲームが神戸開催だったので、私はその日の観戦のために電車で神戸に向かう途中の事でした。車窓から見た景色が震災前と違い、ビニールシートに覆われた一戸建ての住宅や仮設住宅の多さ、一部のマンションの下にある駐車場が自動車が下敷きになった状態で崩れたままの光景が目に付き、心が再び痛みました…。

そして、震災のその翌年からコンサートや一人で散策目的などで時々神戸に行きました。行く度に復興してきれいな街となっていくのを見てなぜか神戸が蘇ったような感じがしました。まだまだ復興しきれない部分が見えないところにあると思いますが、完全復興を祈るばかりです。最後になりますが、私は神戸という街が大好きです、なぜならば色んな名所があり、訪れるたびに楽しませてくれるから…。

名前：井上明巳（あきみ）

年齢：31
住所：大阪府吹田市山田東１－３１　Ｂ－５１１

メッセージ:僕は、ちょうど、幼稚園の年長の時で、大阪に住んでいたんですが、ものすごい、大きなゆれだったので、お父さんとお母さんが、頭の上にあったタンスが倒れないように、ささえてくれました。

名前:今川貴志(いまがわ　たかし)

年齢:15
住所:大阪府枚方市

メッセージ:阪急電車が初めて武庫川を越えて西宮北口駅まで復旧した日、僕はスクータで神戸市内に住んでいた知人の所まで救援物資を運ぶことになりました。
その当時、僕は尼崎に住んでおり、行きは瓦礫やヒビの入った裏道を走りぬけ、なんとか知人に救援物資を届けることができ、帰りは夕方になってしまい、裏道を走ると暗くて危ないので国道2号線を帰ることにしました。
当然、街灯も信号も点灯しておらず、渋滞する車のヘッドライトを頼りに走ることになりました。その時、歩道をみると人の行列が絶えることなく東に向かって歩いている姿がありました。初めは気づかなかったのですが、その行列は西宮北口駅まで続いているようでした。この寒い冬の夜空の下、廃墟と仮した神戸の街を、こんなにもの人達が何時間もかけて救援物資を歩いて神戸市内に持っていっていたんだと思い、スクータを運転しながら涙が止まらなくなったのを覚えています。あの寒い夜から10年が経ち、今は大阪に住んでいますが、見事に復興することができた神戸の街をまた訪ねたいと思います。

名前:浦田稔(うらたみのる)

年齢:35
住所:枚方市

メッセージ:あの日愛猫が暴¥れまくって目覚めた時大揺れ、自宅のほうは大丈夫だったけど、居酒屋の店は棚のボトルが全部落ちて酒臭いのとガラスの散乱で呆然・・・でもテレビのニュースが回復、神戸の大災害・大火事に比べれば些細な出来事・・・
でも記憶から消すことの出来ない1.17だけど、心温まる優しさの始まりでもあったはず、だから早く復興して今の神戸があるんですよね

名前:佐々木秀重(ささき　ひでしげ)

年齢:49
住所:吹田市

メッセージ：あの「阪神・淡路大震災」から10年。振り返ると長いようで短い日々でした。「1995年1月17日」は、私の家族にとって、生涯忘れることが出来ない日となりました。

震災当時、私は、ごく普通の高校生でした。中学時代に初めて訪れた神戸の街並みに惹かれ、都会暮らしに憧れていました。姉は当時二十¥歳、伊丹市に住み、神戸で大学生活を送っていました。

震災直前。両親が、姉の成人式を祝うため、1月14日から17日までの予¥定で神戸を訪れていました。そして、震災前日の1月16日。「大雪で早く帰らなければならないから」といって、予¥定より1日早く、電車と高速バスを乗り継いで、夜遅く鳥取へ帰ってきたのです。おみやげのお菓子とたくさんの楽しい思い出話も一緒に、姉とたわいもない話を電話で交わし、それぞれが床につきました。
（のちに、このバスが、「震災前に鳥取に向かう最終便」となる事を知らずに…）

「1995年1月17日」…あの時、とても寒い朝でした。家の前には数日前から降り積もった雪が厚く積もっていました。雪が降ることを告げる雷鳴轟く中、目覚し時計がいつもより十¥数分早く鳴りました。「通学用の路線バスに乗り遅れてはいけない」そう思い、目覚めようとした、そのとき。突然下から突き上げるような揺れを感じました。揺れが収まるのを待ってすぐにテレビを付け、身支度を始めました。「午前5時46分　兵庫県南東部を震源とする地震」…その言葉を聞いたとき、制服のボタンにかけていた手が、止まりました。

すぐに姉のところに何度も電話をしたけれども通じず、途方にくれかけたころ、
姉から電話がかかってきました。「下宿先は無事だけど、大家さんの家が全壊した」とのこと。ちょうど同じころ、何度も見慣れている場所の、変わり果てた街の姿が次々とテレビに映し出されていました。
阪急伊丹駅の駅舎は大きく崩れ、阪神高速の倒壊現場、交通機関の乗り換えや買い物などで訪れていた三宮のビル街や港が崩れていく…。しばらくショックを隠せませんでした。

それから数年後、偶然にも私も神戸で大学生活を過ごすことになりました。辛い時に、復興していく街の姿や、震災に負けないで明るく・そして力強く生きている神戸・兵庫県の人々の姿に、何度勇気付けられたか分かりません。

大学を卒業し、ふるさとである鳥取にUターン就職した今でも、神戸に向かう特急列車や、テレビドラマのテーマ曲と共に映し出される神戸の景色を見ては、当時のことを思い出し、私も頑張っていかなきゃいけないなと感じています。

最後になりましたが、私にとって「第二のふるさと」である神戸の街が、これからも輝き続けられますように…そして、ハード面だけではなく、被災された皆さんの心の中の復興が、進んでいくよう願ってやみません。「がんばろう、KOBE」

名前：里田幸子（さとだゆきこ）

年齢：26
住所：鳥取県倉吉市

メッセージ:神戸を愛して止まない広島市在住のものです。震災から10年という節目を迎えて思うことは、やはり残念ながら忘れてしまうものだなあということ、特に震災に遭わなかったメディアを通して情報を得ている人たちは。ここ最近、色んなメディアから"震災10年"と題されたテーマで震災に遭われた方々・企業、などがその後どのように過ごしているかを拝見する機会がありましたが、それらの方々・企業はまだ震災で受けた心の傷を背負いながらも懸命に毎日を過ごしているんだなとハッと思わされました。"なんで自分だけ助かってしまったのだろう"と自責の念にかられると聞いた言葉が一番印象に残っています。きっと自分も同じように震災に遭い大切な家族や友人を目の前で失っていたら、きっと同じようにそう思うだろうし、それを思うだけで心が痛んで仕方ありません。だけど、人はそんな辛い思いをしても生きていくんだよ！というより与えられてるんだよ、生きることを。
だから、震災に遭われた方々・企業はこれからも神戸で生きていってほしいし、さまざまな事情で神戸を離れられた方々・企業も帰って来るチャンスがあったら、是非ともまた神戸で生きていって神戸はこんなに素晴らしい街なんだ！と発信していってもらいたいです。私もこれからも神戸に何度も運んで、神戸の良さを発信していきますよ！！！これは野望ですが、いつか神戸に住みたい！！野望じゃなくて、希望ですかね？(笑)"思いは叶う"といいますから、夢や希望を持ってこれから生きていけたらいいですね。それだけで、生きることが楽しくなるだろうね！！

名前:さかた　はるみ

年齢:28
住所:広島市

メッセージ：最近のニュースはスマトラ地震津波、新潟中越地震など、
地震関連のものが目立ちます。
でも、こればかりは事件、事故のように事前に防止することができず、
科学が発達した今でも100%地震がいつ起こるかを誰も知ることはできません。

僕も中学一年のとき、阪神とか新潟とはかなり小さい震度5弱ですが、
芸予¥地震を体験しました。
震度5弱とはいえ、ゆれは結構¥すごく、立っていることもできず、
ただ机の下で机の脚にしがみついていたのを今でも覚えています。
でも、阪神とか新潟はこれよりさらにひどいゆれ、ということで
本当に、本当に怖いです。

「地震を予¥知することはできないが、被害を小さくすることはできる」

よく聞く言葉です。
我が家でも最近、家具に突っ張り棒をつけたり、ペットボトルの水を用意したり、
だいぶ意識が変わってきました。

まだ幼稚園だったので、あまり記憶にない、阪神大震災。。
でも、今、本当に強く感じています。
そして、この10年の節目を機に、もう一度地震について、災害について
よくよく考えてみたいです。

名前：三浦　秀章　（みうらひであき）

年齢：16
住所：愛媛県新居浜市

メッセージ:私は、現在福岡県に在住しております42歳の男性です。震災の時は須磨区と長田区の境(海側)にありましたマンションで被災いたしました。地域的にはご存知のようにかなり酷い被害状況でしたが、当時の会社の計らいで九州の系列会社へ転勤を命じられ、神戸の皆様が苦しい思いをしている時に、住むところも働くところも安全に満足いくレベルで生活をさせて頂きました。そんなラッキーな状態でしたが、神戸の話題に接する度に、自分が神戸から逃げ出したという気持ちが強くなり、本来なら皆様と復興のため自分なりにできることをすべきではなかったのか、皆様が一番酷い時に何不自由なく暮らせた自分は正しい選択をしたのか、ともて不安で嫌悪感を感じた時期が長く続きました。10年も立ちますとだんだんとその気持ちも薄れはしますが、毎年この時期になると神戸の皆様に対して後ろめたい気持ちが湧き上がります。本当に申¥し訳ない思いでいっぱいです。私自身はこの10年間で福岡での経済的生活基盤が出来上がり、こちらの女性を妻にし、ますます神戸へ帰る機会が人生の中で少なくなってきております。親兄弟親戚一同みな関西ぁw)任垢・ョ笋世韻櫃弔鵑繁困譴蕕譴燭茲Δ剖綵・膨蠱紊靴討靴泙い泙靴拭・海譴眇生佑・蘰┐ 化个靴深・・僕燭┐ 蕕譴浸醂・・發靴譴泙擦鵑諭H鏈匱圓涼罎埜・阿膿生佑鮖廚い覆・蘋験茲靴栃・・い襪里・匹Δ・錣・蠅泙擦鵑・・綵・涼呂・蘓生佑旅垢覆詒・犬鬚才Γ蠅靴討、蠅泙后D豹①・・防嗷ァ・墨妥は開局のテスト放送のときから聴いておりました。(24時間曲を流していたと記憶しております)これからもどうぞ頑張って下さい。

名前:佐藤康弘(さとうやすひろ)

年齢:42
住所:福岡県粕屋郡

メッセージ:昨年まで大津市に在住しておりました。今は異国での生活をしていますが、この日が近づくとあの日の惨劇にいつも心が痛みます。私にとっての神戸は特別な物で憧れの地であり、そして色々な想い出が一杯詰まった場所なのです。震災前から頻繁に訪れることがありその度に好きになって行った街が、あの一瞬の出来事で数千もの尊い命や美しい街並みを奪い去っていった事に"自分に何が出来ないか!!"といても経ってもいられずに車を走らせ涙ながらにボランティア活動をさせて頂きました。あのときを思い出すと人間と言う者の"小ささ"、逆に"大きさ"の双方を全身に実を持って感じました。その後神戸は著しく復興を成し遂げていると誰もが感じているのかもしれませんが、自然災害の恐ろしさ・人と人で創れる未知の力を生涯忘れることなく、生きていきたいと思います。2年後、一時帰国した際にはいの一番に"元気な神戸"へ足を運ぶつもりです。
ラジオ放送は聞けませんが、これからも神戸だけといわずに、多岐にわたるリスナーに愛されるRADIO STATIONであってください。そして、尊い人命を奪うような災害、戦争が永久にないことも合わせてBrasilから心より祈念致します。

名前:西條　正剛(さいじょう　せいごう

年齢:35
住所:　SAOPAULO-BRASIL